

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホームあさぎり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県 東松島市
記入者名 (管理者)	管理者 佐藤 康弘
記入日	平成 19 年 10 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合いを行い、その人らしい暮らしを支援しているように事業所独自の理念を作り上げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目に留まりやすいところに理念を掲示している。職員会議やミーティング、日々の会話の中で話をしながら、サービス提供に役立っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会の行事や面会時などを通して、ご家族にあさぎりの理念等お伝えし、理解を得られていると思うが、地域の方々への働きかけや理念の浸透にはまだまだ不足の部分があると感じている。	○ 運営推進会議を通して、地域の区長や民生委員にホームの活動状況を説明し、理解を得られるよう努めている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の神社の御旅所などに利用してもらい、地域の方々が集う所になってきたと思われるが、日常的なつきあいとまでは至っていない。	○ 管理者や職員が地域に出向いたりしながら、隣近所の方々が気軽に立ち寄れるように努力している。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお花見会や脳活性化教室へ参加し、地域の人々と交流することに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	あさざりが地域の方々の暮らしにどのような貢献が出来るのか話し合いを行っている。今後の課題であると感じている。	○	運営推進会議等で話し合いを行い、地域の方々がどのような情報を必要としているかを検討し、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について全職員で話し合い、自己評価は全職員で取り組んでいる。評価の内容を真摯に受け止めサービスの改善や向上に努めている。	○	評価の結果を全職員で確認しあい、さらに改善に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の方々の生活の様子や活動状況を報告し、意見や助言をいただき、職員会議で報告し、サービスの向上に役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での関わりとなっているのが現状である。サービスの質の向上をめざし、関わりを持っていくのが今後の課題であると感じている。	○	包括支援センター所長が推進委員になっており、今後サービス向上に繋がるような助言をいただき取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用を入居以前から活用している方がおられ、職員間で利用状況等について確認している。権利擁護等の研修があれば学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等について職員会議等で話し合い、虐待が起らないように職員の資質向上に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法についての研修会があれば職員の積極的な参加を促していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書を用いて説明を行い、不安や疑問点等は話しやすいように雰囲気作りに配慮している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情を伺える時間をつくり、遠慮なく申し出てもらえるように配慮し、日常のケアに生かせるように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に生活の様子や健康状態について報告し、預かり金に関してはその都度確認していただいている。また、ホーム便り「だんらん」を四半期ごとに作成し、ご家族へ送付している。	○ 生活の様子、受診状況等を文書にしてご家族へお渡しするようにしていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や不満、苦情を面会時に何うように時間を設けるように努めている。率直なご意見や苦情等は職員間で周知し、速やかに改善し、サービス向上に生かすよう努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設け、ホームの運営に役立っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に柔軟に対応できるように職員は勤務の変更等に理解を示し、柔軟に対応できるように話し合いを行っている。また、調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動等がある場合は、異動や退職日前に後任の職員を配置し、引継ぎや業務内容の把握に努め、利用者が混乱しないように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修会や外部の研修会への参加を積極的に行うように努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症グループホーム連絡協議会へ加入し、ブロック集会等へ参加しながら、他事業所とも交流を行うよう取り組んでいる。	○ 地域の同業者との交流する機会を設けて、サービスの質向上に努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の意見を聞く機会を設けて、業務に対する悩みなどを積極的に聞くように努めている。	○ 休憩時は勤務する職員と利用者が同一の空間で休憩を取っている形なので、少しの時間でもゆったりと休憩できる場所の確保に努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりに声を掛けながら、個人の勤務状況を聞いたり、称賛する事によって、勤務意欲の向上が図られるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にはお茶等を共にいただきながら、話しやすい環境づくりに努め、ご本人から不安なこと、要望等を伺いながら、対応するよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が不安なことや、困っていることを親身になって伺い、できる限り対応したり、援助やアドバイスをを行うように努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けて現状で対応が困難な場合は、関係するサービス機関等を紹介したりして対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族には、いきなりの開始とならないように、見学を進めながら馴染みの関係を築けるように努めている	○	実際には1回程度の見学となっており、馴染みの関係作りとまでは至っていないのが現状であるので、更に希望者と相談しながら努めて行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に共に生活を送るという考えのもとにケアを進めながら、喜びや悲しみを共に分かち合い、感謝の気持ちを持ちながら互いを支えあう関係を築いていくよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えられるように家族会を設置し、家族同士の悩み事相談等が出来る機会を設けたりしながら、関係作りを努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも自由に来訪して頂き、ゆっくりと話が聞ける雰囲気作りに努め、ご利用者とご家族のより良い関係が継続していけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者を歓迎し、再度来訪したくなるような雰囲気を提供し、馴染みの関係が継続できるように支援している。手紙への返事の支援や電話の取次ぎなどは快く対応するように努力している。	○	馴染みの場所やご本人が希望する場所へ出掛けていくように努めていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者一人ひとりが孤立しないように職員が関係を築く橋渡しを行うように努めている。お互いを支え合うことの大切さを職員が常に考えて行くように努力している。	○	共同で行うような役割を見出し、いっしょに活動し、互いを支え合える心を築き上げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、同一法人が運営する特養を利用されている方とは継続的な関係が保たれている。その他の方とは継続的な関係とまでは至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りご本人の希望や悩みを伺うように努め、ご本人が望む生活が継続できるように努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日常の会話の中からさりげなく聞き取ったり、ご家族から協力をいただきながら、これまでの生活について把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中から、ご本人の潜在する能力を引き出せるように自然な形で仕掛けをしていくように取り組んでいる。また、生活記録等を利用して情報を共有するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族から希望や意見を伺い、介護計画に反映するように努めているが、まだまだ改善して行く必要があると考えている。	○	ご面会の方々や運営推進会議等を活用して、意見やアイデアを取り入れて行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。ご本人に変化が生じた場合は、ご本人やご家族と相談して随時計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別の生活記録に記入し、情報の共有に努めながら実践に役立っている。個別の記録から介護計画の見直しにまではいたっておらず、今後の課題である。	○	職員会議等で記録からの情報を共有し、計画の見直しに役立てて行く。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人や家族の状況を考慮して、通院等の支援サービスを行い、ご家族と相談しながら柔軟に対応できるよう体制を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を開催する事によって、民生委員の方などにご協力を頂くことができるようになった。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の老人会のお花見会や脳活性化教室へ参加したり、ご利用者の体調や状態によって近所の理容所から訪問サービスを受け、他のサービスを利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議へ参加するようになり、情報を共有することができるようになった。	○	ご利用者のみならず、ホームの持つ機能を何らかの形で地域の高齢者へ還元できない相談している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、主治医についてご本人及びご家族の希望を伺って適切なかかりつけ医を受診できるようにしている。入居以前からのかかりつけ医をご家族の対応によって継続して受診されている方がいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	特養の看護師の訪問や訪問看護ステーションとの関係作りを検討する必要がある。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化した時のホームの方針を定め、ご利用者、ご家族との話し合いを十分に行っていくようにしたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期への対応を十分に検討していかなければならないと考えている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議やミーティングで、日々の関り方を管理者が点検し、職員の意識向上を図るとともに、一人ひとりの尊厳を守るように徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者に合わせた声かけや働きかけに留意し、自己決定を促している。意思表示が困難な方には、表情から読み取ったりして、ご本人の思いや希望を察するように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、ご本人のペースや体調に配慮し、その時のご本人の気持ちを最優先して過ごせるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や髪型はご本人の意向で決定してもらうよう支援している。自己決定がしにくいご利用者には、職員と一緒にあなたのご本人の気持ちに沿った支援が出来るように配慮している。理容はご本人の希望に配慮し、馴染みの店でカットや毛染めをしていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に席で同じものを食べ、会話をしながら楽しく食べられるよう支援している。食材切り、盛り付け、後片付けは毎日参加してもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	居室へ冷蔵庫の持込をしてもらい、ご本人の好きな物を好きな時に飲食できるように支援している。職員はご本人の嗜好品を把握して食を楽しめるように日常的に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人のリズムや時間を把握し、トイレ誘導したり、ご本人の訴えに対応した介助に心掛けている。排泄チェック表を活用して時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	○	リハビリパンツから下着と尿取りパットへ移行して気持ちよく過ごせるようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には職員側で調整して入浴を行ってもらっている。夜間の希望の方は就寝前の入浴を支援している。入浴拒否が見られた場合などは、時間をずらしたり、別な職員が対応し再度お誘いするように努めている。	○	ご本人の希望する時間や入浴日を聞き取りながら支援するように心掛けて行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない方には、読書や暖かい飲み物を勧めたりして、安心して就寝できるように配慮している。また、お話し相手になったりして不安の解消をするように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な仕事などで力を発揮できるように、お願いしながら仕事をしていただき、感謝の声を忘れずに行うよう努めている。バスハイクなどで遠出したり、買い物に出掛けたりして気晴らしできるようにご利用者と相談している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所が管理しているが、買い物や理容代などはご自分で支払いをしていただき、社会性を維持していけるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店への買い物、戸外の散歩はご本人の希望に沿って気軽に出掛けられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆や彼岸などの墓参りはご家族の協力を得て行われている。外出行事を予め計画し、職員の勤務調整等を行い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を代筆したり、電話の要望に対応している。電話は子機を使用して居室でも掛けられるように配慮し、プライバシーの確保も出来るように努めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会場所はご本人、ご家族の希望される場所で自由に行って頂き、お茶等の提供を行い、再来したいと思って頂けるように居心地を良くするように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で勉強会を行ったり、確認したりしながら、身体拘束の無いケアに日常的に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が共通の理解をしており、居室もちろんのこと日中も玄関には鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者と同一の空間で記録を書いたりして、さりげなくご利用者の状況を把握できるように努めている。夜間は定時に巡視を行い、安全の確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や爪切り等、ご利用者の状況に応じてご自身で管理してもらっている。職員は日常のご利用者の管理状況をさりげなく確認している。薬品等は職員が保管・管理し、安全なホームになるよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練や救急救命の講習は毎年受講している。誤飲の危険性のある方には、食形態等を見直し、状態に応じた内容の物を提供し事故防止に努め、職員会議等でも随時確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の講習会には参加しているが、それらの訓練を定期的には行っていないのが現状である。	○ 今後の課題として、ホーム内で急変時等への対応の訓練を定期的に取り入れていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署に協力を依頼し、避難訓練を見学してもらい意見をいただいたり、消火器の使用法を指導してもらっている。地域の消防団員の方に自動火災通報装置に登録して頂いている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時にご本人の状況等を報告し、起こりうるリスクについて随時説明し、対応策についてもご家族と話し合い、ご理解を得た上で対応を行うように努めている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、排便の確認、食事摂取状況の把握などを記録し、状況によっては速やかに医療機関受診ができるように情報を共有することに努めている。	○ 今後も速やかな対応を行うように努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をご利用者ごとにファイルし、職員が内容を理解できるように努めている。服薬は確実にできているかの確認をしている。	○ 薬の効能や副作用の学習会を実施して行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、排泄チェックシートを活用し、下剤の調整や水分補給を強化したり、食物の工夫等に取り組み、体調管理に努めている。	○ 食物や身体を動かさず働きかけを行い、できるだけ下剤を使用しない取り組みを強化していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さを職員は理解しており、毎食後の歯磨き、うがい等の声かけ、見守り、介助を怠らないように留意している。義歯の調整にも歯科受診を支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックシートを活用して職員間で情報を共有し、ご利用者の好む物で捕食して、抵抗無く摂取してもらえるように支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する情報を収集し、マニュアルを作成して、対応を取り決めて実行している。手洗い、うがい、換気等は日常的に励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、まな板、ふきん等は毎夕食後に漂白して、衛生管理に努めている。食材については、肉や魚の生鮮食品は専門の業者に納品してもらい、新鮮なものを使用するように管理している。冷蔵庫の残り物の点検も定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇やプランターを設置し、季節の花を植えたりして、季節感が漂うように雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面の装飾を行い、馴染みの行事(お盆・七夕・お月見等)の季節であることを伝え、生活感が味わえるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や食堂、テラスには、ソファやベンチを設置して、気の合った仲間や一人になれる空間をつくり活用されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が使用していた馴染みの家具や椅子等を持ち込んでいただき、居心地の良い自分自身の空間をつくっていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食後には一定時間の換気に努め、空気の入替りに努めている。ご利用者の状態に合わせて、居室、廊下、共用スペースの温度差に留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さ、手摺りの位置など、ご利用者の状況に合わせて設置されており、自立した生活が送れるよう配慮している。ご利用者の身体機能に合わせて、夜間のみポータブルトイレを設置し安全に使用できるようにしている。	○	入浴が不安なく出来るように、浴槽の手摺りの見直し・追加を行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉にはご利用者の特徴を生かした暖簾を掛けたり、時計やカレンダーをご利用者の見やすい位置・高さに設置し、混乱を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑のスペースを確保したり、テラスにベンチを設置して、ご利用者同士がお茶飲みや会話を楽しめる空間をつくり活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・ご家族・職員がお互いを認め合い、信頼し合って生活を送れるように支援することを理念に掲げ、共に生きることの大切さを念頭において活動している。地域で行われている「脳活性化教室」や「敬老会」に参加し、利用者が地域の一員として生活を送れるように、運営推進会議等を通して地域の理解を深めて行けるよう取り組んでいる。